

ISSN 0385-8367

近畿大学医学雑誌

第四十三卷

第三・四号

(89~154)

平成三十年十二月十四日発行

Medical Journal of Kindai University

近畿大学医学雑誌

第43卷 第3・4号 2018

近畿大医誌

Med J Kindai Univ

近畿大学医学雑誌

第43巻 第3・4号 2018

目 次

巻 頭 言

人工知能 (Artificial Intelligence : AI) により医療の未来はどう変わる?土井勝美

総 説

—乳癌—

.....菰池佳史, 東 千尋, 金泉博文, 田中裕美子, 濱田未佳, 新崎 亘, 橋本幸彦, 平井昭彦,
大和宗彦, 北條敏也, 乾 浩己 93

シリーズ 最新のがん

免疫チェックポイント阻害薬の有害事象のマネジメント.....林 秀敏 105

原 著

学外の臨床研修病院の研修責任者からみた本学出身の研修医の評価

.....本学の教育アウトカムの視点から.....

.....窪田愛恵, 伊木雅之, 赤木将男, 松村 到, 池田行宏, 甲田勝康, 岡田 満, 三井良之,
奥村二郎, 平出 敦 111

ヒト指骨-関節モデルの再生誘導における骨膜の採取部位差の影響井内友美 117

オピニオン

厳格な減塩は本当に必要なのか.....坂口好秀 127

研修医のための教育講座

急性腹症と消化器外科手術について.....重岡宏典 135

医学教育シリーズ

保護者懇談会での講演「保護者の望ましいコミュニケーション」についてのアンケート結果の分析

.....磯貝典孝, 池田行宏, 松尾 理 143

著者訂正 151

第77回近畿大学医学会学術講演会

プログラム	1 A
平成30年度近畿大学医学会賞受賞者リスト	3 A
抄録	9 A
第29回（2019年度）近畿大学医学会奨励賞募集要項	1 S
索引（43巻1・2号, 3・4号）	153
編集後記	稲瀬正彦

著者訂正：

実践的頸動脈エコスクリーニング基本検査法の策定

小谷敦志

近畿大医誌 (Med J Kindai Univ) 第43巻 1・2号 47-54 2018.

上記論文において、図1と図2が、文献3 (Jpn J Med Ultrasonics. 43: 723-728, 2016) からの転載引用一部改変であることを、記載し落としておりましたので、追加・訂正いたします。

ホームページ等に掲載しているこの論文のPDF版も訂正いたしました。

Author Index (43卷1号~4号)

A	赤木 將 男	111
	東 千 尋	93
	新 崎 亘	93
F	福 岡 和 也	11
	福 田 智 一	31
H	橋 本 幸 彦	93
	濱 田 未 佳	93
	林 秀 敏	105
	平 井 昭 彦	93
	平 出 敦	111
	平 野 成 彦	17
	北 條 敏 也	93
	堀 川 有 希 子	55
I	飯 塚 昇	85
	井 内 友 美	117
	伊 木 雅 之	111
	池 田 行 宏	111, 143
	石 井 一 成	3
	磯 貝 典 孝	143
	乾 浩 己	93
K	垣 内 駿 吾	87
	金 泉 博 文	93
	上 裕 俊 法	67
	河 村 優 人	87
	窪 田 愛 恵	111
	甲 田 勝 康	111
	小 谷 敦 志	47
	小 西 悠 平	77
	菰 池 佳 史	93
M	松 尾 理	143
	松 村 到	111
	三 井 良 之	111
	南 方 俊 佑	77
N	中 川 和 彦	11
	中 村 雄 一	85
	西 尾 和 人	11
O	大 槻 俊 輔	55
	岡 田 満	111
	奥 村 二 郎	111
S	坂 井 和 子	11
	坂 口 好 秀	127
	坂 本 洋 一	85
	重 岡 宏 典	135
	瀬 口 京 介	87
T	武 田 真 幸	11
	竹 村 司	77
	田 中 裕 美 子	93
W	和 田 紀 久	77
Y	大 和 宗 彦	93
	湯 沢 航 平	85
	卷頭言 宮澤正顯	1・2号
	土井勝美	3・4号
	編集後記 稲瀬正彦	1・2号, 3・4号

Subject Index (43巻1号～4号)

A	anti CTLA-4 inhibitor	105
	anti PD-1 inhibitor	105
	anti PD-L1 inhibitor	105
	アテローム血栓性脳梗塞	55
B	bFGF	31
C	carotid ultrasound	47
G	学習習慣	143
	減塩	127
H	ヒト耳介軟骨	17
	ヒト指骨モデル	117
I	immunocheckpoint inhibitor	105
	irAE	105
	医学教育	111
J	耳介形状軟骨	17
	徐放化システム	31
	自律的	143
K	感性分析	111
	関節軟骨	117
	教育アウトカム	111
	抗 CTLA-4 抗体	105
	抗 PD-1 抗体	105
	抗 PD-L1 抗体	105
	高血圧	127
	抗動脈硬化治療	55
	骨再生	117
	骨膜	117
	コミュニケーション	143
	コミュニケーション能力	111
M	慢性腎臓病	127
	免疫関連有害事象	105
	免疫チェックポイント阻害剤	105
	モチベーション	143
N	Neonatology	77
	ナノファイバー	17
	軟骨再生	17
P	Pediatrics	77
R	recombinant tissue-type plasminogen activator (rt-PA)	55
	Residency	77
	臨床研修	111
S	screening procedure	47
	Specialty Boards	77
	承認	143
	神経再生	31
	心血管イベント	127
	心不全	127
	生分解性人工神経	31
	生分解性ポリマー	117
U	U型現象	127

近畿大学医学会会則

第 1 条 本会は、近畿大学医学会と称する。

第 2 条 本会は、医学の進歩発展に寄与し、医学的知識の向上と、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

1. 近畿大学医学雑誌および Acta Medica Kindai University の発行
2. 学術講演会の開催
3. 学術図書の発行
4. その他本会の目的を達成するに必要な事業

第 4 条 本会は、次の会員をもって組織する。

正 会 員 近畿大学医学部に所属する教員，研修医，大学院学生および特別研究生
近畿大学学園の医学部以外の教職員および研究員で本会に入会を希望し評議員会で承認されたもの
近畿大学医学部卒業生

準 会 員 近畿大学医学部に在学する学生

名誉会員 本会の発展に著しい貢献のあった者で、幹事会の提議により評議員会で承認されたもの

特別会員 前記会員のほか、本会の主旨に賛同し入会を希望する医学関係者で評議員会で承認されたもの

賛助会員 本会の主旨に賛同し、本会に援助することを希望するもので評議員会で承認されたもの

第 5 条 会員は、附則に定める会費および入会金を納入しなければならない。

2. 会費を納入した会員は、近畿大学医学雑誌および Acta Medica Kindai University の配布を受けるほか、第 3 条の事業に参加することができる。
3. 準会員は第 3 条の事業に参加できるが雑誌の定期的配布は受けられない。但し学術講演会や雑誌に発表した場合は当該巻号の雑誌を希望により受けることができる。

第 6 条 本会に次の役員をおく。

会 長 1 名 近畿大学医学部長がこれにあたる

副 会 長 1 名 会長が委嘱する

顧 問 若干名 会長が委嘱する

幹 事 若干名 会長が委嘱する

評 議 員 若干名 会長が委嘱する

監 事 2 名 会員中より評議員会で選出し会長の承認を得る

2. 役員任期は、2 年とする。ただし再任を妨げない。

第 7 条 会長は、本会を統轄し、必要に応じて幹事会、評議員会を開催し、その議長となる。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長が不在のときは、これを代行する。

第 8 条 幹事は、幹事会を組織し、本会の会務（庶務・会計・編集その他）を分担し執行する。

第 9 条 評議員は、評議員会を組織し、本会の重要事項を評議する。

第 10 条 監事は、本会の会計および資産などを監査する。

第 11 条 総会は、年 1 回これを開催し事業の報告などを行う。

第 12 条 本会の会則を変更する場合は、評議員会において出席者の 2 分の 1 以上の同意を必要とする。可否

同数のときは議長の決めるところによる。

ただし評議員会の成立は2分の1以上の出席を要する。この場合委任状をもって出席に代えることができる。

第13条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

第14条 本会の事務所は、近畿大学医学部内におく。

附 則

1. この会則は、昭和51年11月1日から施行する。
2. この会則の改正は、平成23年4月1日から施行する。
3. 会費および入会金は次のごとく定める。

	会 費	入会金
正 会 員	年額 3,000円	1,000円
準 会 員	会費, 入会金ともに無料とする	
特別会員	年額 3,000円	1,000円
賛助会員	年額 50,000円以上	

なお、会費・入会金を変更する場合は評議員会において定め、会員にその旨通知する。会費は、年度始めに前納する。

4. 会費未納の場合は、会員の資格を失う。
5. 会長は、編集委員若干名を医学部教員中から委嘱する。

編集委員は、医学雑誌等の発行に関する業務を行う。任期は3年とし、再任を妨げない。

(2011年4月1日改訂)

近畿大学医学会雑誌投稿規定

1. 近畿大学医学会は公式に2種の雑誌を刊行している。その一つは欧文誌の Acta Medica Kindai University (Acta Med Kindai Univ) で、用語は英語とするが、ドイツ語あるいはフランス語の論文も受付ける。他は和文誌の近畿大学医学雑誌(近畿大医誌)で、用語は日本語とする。
2. 投稿者は原則として近畿大学医学会会員に限る。ただし、編集委員会が特に依頼したものはこの限りではない。
3. 論文は医学に関する創意的な原著、総説、症例報告などで、原則として他の刊行物に発表もしくは受理されていないものに限る。
4. 原稿は良質な用紙を用い、本規定および別に定める原稿作成要項に従って作成され、内容と体裁が整っており、直ちに印刷することができる状態のものでなければならない。
5. 原稿の本文の長さ、ならびに図、表、および文献の数は全体のバランスにより制限することがある。
6. ヒトを対象とする研究の報告は、ヘルシンキ宣言の原則にのっとり倫理委員会等の承認を得たものである事を記載しなければならない。また、動物実験の報告は動物愛護の精神に基づき近畿大学動物実験委員会等の承認を得たものである事を記載しなければならない。
7. 既出版の図表などの引用については出版社および著者の承認書を添付し、また個人識別ができる患者の写真を掲載するときは、患者本人もしくは法定代理人の承諾の手紙を添付することが必要である。
8. 投稿の際は、原稿(original)およびコピー(Acta 4部、近畿大医誌3部)ならびに編集委員会所定の連絡票および原稿チェックリストと著作権の同意書を提出する。
9. 共同執筆の場合、近畿大学医学会所定の書式で、すべての共著者が当該原稿の投稿を承認したことを記述した資料を添付すること。
10. 投稿原稿の掲載の可否は、すべて編集長が依頼した担当編集委員及び複数の査読者による査読を経て、決定される。
11. 論文の掲載の順序は、原則として完成原稿の受理日の順とする。ただし、校正等に要する時間によっては掲載される号が変わることがある。
12. 校正は著者の責任において行われる。著者校正は初校のみとする。初校にあっては必要最小限の訂正に止め、行の増減を伴わないよう配慮すること。組版に影響するような大きな修正は編集長の許可を必要とする。指定の期日までに返却されないときは編集委員会の責任校了とする。
13. Acta Med Kindai Univ については、カラー写真の費用は全額著者が負担するものとする。近畿大医誌については、組版代および図版(写真を含む)費用の全額を著者が負担するものとする。また両誌とも別刷についてはすべて有料とする。尚、編集委員会からの依頼論文など特殊な場合の経費については、別途に定める。
14. 特急査読論文として当該年度の3月15日に学位記を授与されるための論文(甲)を8月1日より9月30日までの間に投稿する場合、近畿大学医学会事務室に特急査読料(100,000円)を納付した後に受付される。
15. 発行予定は、Acta Med Kindai Univ では年2号(6, 12月)、近畿大医誌では年4号(3, 6, 9, 12月)とする。
16. 投稿先は〒589-8511大阪狭山市大野東377番地の2 近畿大学医学部近畿大学医学会雑誌編集室(電話072-366-0221 内線3218 FAX072-367-8810 E-Mail henshu@med.kindai.ac.jp)とする。著者本人が持参するか、書留郵便で郵送すること。
17. 「原稿作成の手引」は各巻の第1号に掲載されている。また、必要な場合は編集室に直接申込むこと。
18. 論文の著者および共著者は、当該論文の著作権が近畿大学に帰属すること、および掲載された論文については冊子体以外の媒体で公開されることを承諾したうえで投稿する。

(2015年3月1日改訂)

近畿大学医学会役員

会長	松村 到	幹事(会計)	奥村 二郎
副会長	東田 有智	〃 (編集)	稲瀬 正彦
顧問	楠 進	監事	重吉 康史
〃	伊木 雅之	評議員	医学部主任教授
幹事(庶務)	池上 博司		

編集委員会

稲瀬 正彦 (編集長)			
池上 博司	伊藤 彰彦	岡田 満 (モーニングセミナー)	奥野 清隆
加藤 天美	上裕 俊法	竹山 宣典 (教育講座)	巽 信二
中尾 慎一	中川 和彦	西尾 和人 (シリーズ最新のがん)	宮崎 俊一
宮澤 正顯 (大学院医学研究科シリーズ)			

「原稿作成の手引き」は各巻の第1号にあります。
また必要な方は編集部宛お申込み下さい。

近畿大学医学雑誌

第43巻 第3・4号

平成30年12月7日 印刷
平成30年12月14日 発行

発行人 松村 到

編集人 稲瀬 正彦

発行所 近畿大学医学会

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377番地の2
近畿大学医学部内

印刷所 近畿大学 管理部 用度課(出版印刷)

〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号

本書の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・
出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。

編集後記

地震、大雨、台風と、次々と災害に見舞われた夏が過ぎました。幸いにも、本学は大きな被害に見舞われることはありませんでしたが、皆さまはいかがでしたでしょうか。

さて、本号の巻頭言では、土井教授が、AIにより医療がどう変わるか、について述べられています。未来の医師の役割がどうなるのか、じっくりと考えておくべき問題だと思います。総説では、菰池教授に、乳がんの診断と治療に関して、歴史的な変遷から最新の医療までを解説していただきました。手術法の改良やゲノム医療の進歩による分子標的薬などについて、わかりやすく述べられています。シリーズ「最新のがん」では、林先生が、免疫チェックポイント阻害薬について解説して下さいました。ちょうど10月には、京都大学の本庶先生が、この薬の開発につながるPD-1分子の発見でノーベル医学生理学賞を受賞されました。研修医のための教育講座では、重岡教授が、急性腹症の診断と手術について、症例を交えながら、わかりやすく解説して下さいました。臨床の場で、すぐに役立つ内容です。また、英文誌のActa Medicaには、眼科の山下教授が、未熟児網膜症の治療について総説を寄せて下さいました。困難な症例に対して、見事な手術をなされています。なお、坂口先生原稿については議論がありましたが、オピニオンという形で掲載させていただきました。様々なご意見をお寄せいただければ、ありがたいと存じます。

以上のように、本号も幅広い内容となっています。会員の皆さまに、興味を持って読んでいただけるものと思います。

編集長 稲瀬正彦

今年度、御多忙の中、近大医誌とActa Med Kindai Univに投稿された論文を査読して頂いた先生方に感謝の意を表して下記にお名前を列記致します。

赤木 将男 (整形外科 教授)	清水 重喜 (病理学 准教授)
有馬 秀二 (腎臓内科 教授)	高橋 英夫 (薬理学 教授)
岩永 善高 (循環器内科 准教授)	竹山 宜典 (肝胆膵外科 教授)
上田 和毅 (内視鏡外科 准教授)	辰巳 公平 (再生機能医学 講師)
大磯 直毅 (皮膚科 准教授)	谷山 佳弘 (腎臓内科 准教授)
尾上 雅彦 (心臓血管外科 准教授)	所 忠男 (下部消化管部門 准教授)
柿木 良介 (整形外科 教授)	濱 純吉 (旧堺病院 循環器内科 教授)
梶 博史 (再生機能医学 教授)	平野 豊 (循環器内科 准教授)
上裕 俊法 (臨床検査医学部 教授)	船内 正憲 (血液膠原病内科 教授)
木下 浩二 (血液膠原病内科 准教授)	松本 長太 (眼科 教授)
栗田 隆志 (心臓血管センター 教授)	宮本 裕史 (整形外科 准教授)
佐藤 隆夫 (病理学 教授)	虫明聡太郎 (奈良病院 小児科 教授)
汐見 幹夫 (関西国際空港クリニック 教授)	山田 秀和 (奈良病院 皮膚科 教授)